

## 脳神経外科(脊椎脊髄外科)のご案内

手足がしびれる、手がうまく使えない、歩きにくくなったという方はもちろん、頭痛やめまいなどもお気軽にご相談ください。

診察時間：第2・第4木曜日 13:30~15:30 (予約制)  
(当日診察を希望される方は、14時までに電話でお問合せください。)

担当医師：久保田 基夫 先生  
(亀田総合病院 脊椎脊髄外科部長)  
(いすみ医療センター 顧問 兼 メディカルディレクター)

## 地域連携室の紹介

いすみ医療センター地域連携室では、入院や退院に関連する患者様やご家族からの相談、また、他医療機関や行政機関、介護福祉施設等と連携し、看護師や社会福祉士がご支援いたします。

### 〈主な業務内容〉

- ご自宅での療養生活における医療・看護・介護のご相談
- 退院後の療養先のご相談・情報提供
- 医療保険や介護保険、生活保護等、医療・福祉制度の情報提供
- 入院患者様の転院や施設入所の調整
- 他院からの紹介患者様の調整 (入院・外来受診等)
- 様々な理由による一時的な入院のご相談

### 〈メンバー構成〉

- 外科医師 1名
- 退院支援看護師 3名
- 社会福祉士 2名



### 〈連絡先〉

電話番号：0470 (86) 2311 (代表)  
相談窓口：地域連携室 (2階)  
受付時間：月～金曜日 9:00～17:00  
土曜日 9:00～12:00  
(日曜日・祝日を除く)

# いすみ医療センター通信

Vol. 5

令和7年3月

ISUMI  
MEDICAL  
CENTER  
MAGAZINE

### 目次

- ・手術室 (写真) 1頁
- ・がん検診を定期的に受けましょう 2・3頁
- ・新型MRI装置を導入 3頁
- ・脳神経外科 (脊椎脊髄外科) のご案内 4頁
- ・いすみ医療センター地域連携室の紹介 4頁

自分のために、家族のために  
健康で長生きするために、  
がん検診を定期的に  
受けましょう

外科 高橋副院長

↑  
エレベーター  
手術部門  
家族待合室

山崎豊子の名作小説（白い巨塔）では、主人公の消化器外科医財前五郎は、悲願である国立浪速大学第一外科教授の椅子を手に入れた後、自身が胃癌に冒されて死亡してしまいます。

このような事例は現実にもあり、先日も私の知り合いの消化器外科医が、まだ50代であるのに切除不能の進行胃癌でこの世を去りました。消化器癌を生業にしている医師が消化器癌で亡くなる、その悔しさは計り知れません。彼もまた日々の仕事の忙しさに流されてがん検診を受けなかったのです。

がん検診には、人間ドックから市町のがん検診など、さまざまなものがあります。全ての癌をがん検診で余すところなく見つけることができるわけではありませんが、要精密検査と振り分けられた中から一定数の癌病変が発見されています。

白い巨塔が執筆された1960年代は胃癌は癌による死因の一位でありましたが、検診による早期発見と内視鏡診断・治療技術の発展などにより、（早期発見できたならば）治療し得る疾患となってきました。近年は大腸癌の増加が指摘されていますが、こちらも便潜血とその要精査対象者に行われる大腸内視鏡により、早期で見つければ内視鏡治療でも根治する可能性のある疾患です。

しかし、進行癌となると手術が必要になります。状況によっては切除を諦めなければならないものもあります。切除できたとしても病理検査の結果により、化学療法（抗癌剤の治療）を必要とするケースが多いです。そして、再発を気にしながらその後の人生を歩むこととなります。進行癌で見つかるケースにはいくつかありますが、一番は検診を受けていない人。次は、検診で要精査と出ても病院に来なかった人。例えば、大腸がん検診の便潜血で陽性と出たのに（自分には痔があるから血が混じってしまったのだろうと考えて）精密検査の内視鏡を受けに来なかった人が、数年後進行大腸癌の狭窄症状で病院に運ばれてくるケースで、毎年そういった症例にいくつも出会います。要精査となったら必ず病院に来てください。

そして意外に多いのが、他の疾患で病院に通院していた人に進行癌が見つかるケースです。初診時の問診で「検診を受けていましたか？」と聞くと、通院しているから受けていないと答える患者さんが多いです。何か一つの科に通院して定期的に採血していることで安心していませんか？通院していても、消化器癌、婦人科癌、乳癌など、それぞれの検診をきちんと受けてください。

私は、自分が担当する外来通院している患者さんには、検診を受けているか確認するようにしています。受診の度に、胃カメラいつやろう、大腸カメラ今年受けますかと聞かれるので、患者さんはへきえきしているかもしれません。



手術室風景 その1



手術室風景 その2

それは十分わかっていますが、しばらくぶりの検査で進行癌が見つかったとしたら、患者さんはこう思うのではないですか？

「通院していたのに癌が見つかるのが遅れた」と。

本来、がん検診は自分の意思で受けるものです。検診の必要性を理解して、市町の検診や人間ドックなどを利用して自分の体を管理します。人任せにははいけません。通院している人は自分から主治医に「そろそろ、この検査を受けたいのですが」と言うくらいが理想です。がん検診は万能ではありませんが、癌の早期発見とその後の治療に貢献していることは確かです。自分と家族のために、健康で長生きするために、がん検診を受けてください。

さて、財前の友人の内科医 里見脩二は、財前五郎とは対照的な患者思いの名医として描かれていますが、友人である財前に一言でも「忙しいときこそ、がん検診を受けた方がいいよ」と言わなかったのなら、医師としては今ひとつと感じてしまうのは、私だけでしょうか？

今回の表紙の写真は当院の手術室です。当院にも立派な手術室が3部屋もあります。外科は週に1日（水曜日）ですが、全身麻酔の手術（主に消化器外科領域）を行っています。もしあなたが、当院で手術を行うことになったら、看護師、麻酔医、そして外科医が万全を尽くして安全に手術を行うことをお約束します。しかしながら、手術室に入らなくて良いのであればそれに越したことはありません。

大切なのでもう一回言います。がん検診を定期的に受けてください。



手術器具

## 新型MRI装置を導入

広い空間  
検査の高速化  
画像の高質化



新型MRI装置

当院では、2023年11月より新型MRI装置（Canon社 Vantage Fortian）を導入いたしました。新型MRI装置では、広い空間、検査の高速化、画像の高質化など、様々な点が良くなりましたので、いくつかご紹介いたします。

- ・患者様の寝ていただく穴（ガントリー）が、広くなりました。  
→これにより、従来機よりも圧迫感が軽減され、検査を楽に受けていただくことができます。
- ・AI技術の導入により、画像の質が格段に向上しました。  
→検査を行う際に、必ず出現してしまう画像ノイズを除去し、鮮明に構成できます。この装置は汎用型1.5Tですが、AI技術により3.0Tの高パフォーマンスのMRI装置とほぼ同等の画像を撮ることができます。
- ・早いペースで検査を行えるようになりました。  
→以前のMRI検査では、長い検査時間（約30分）が患者様の負担となっておりましたが、新型MRI装置では、3～4割程の時間短縮が可能となりました。（※検査の内容によっては、時間の長い場合があります。）

新型MRI装置は、脳、内臓（肝臓、膵臓、胆のう）、膝、肩、脊椎（頸椎、腰椎）など、体の各部位を鮮明に見ることできる装置です。気になる症状がある方は、医師とご相談の上、ぜひご利用ください。